

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100663		
法人名	株式会社キリンの里		
事業所名	そよかぜのファミリーキリンの里		
所在地	鳥取市用瀬町鷹狩737-1		
自己評価作成日	平成30年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	平成30年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的・精神的な不安の軽減、認知症の進行が緩やかになるよう入居者様一人ひとりに寄り添ったケアを提供しています。また、残存機能・ADLの維持向上を目標として、「できることはご自身で、できない事のみサポート」を行うよう心がけています。  
また、日常生活を楽しんで頂けるようレクリエーション等を工夫して楽しい施設づくりに取り組んでいます。地域との連携により防災や地域活動に参加し、交流を深め地域の一員として施設づくりを行っています。職員のスキルアップを行い支援の資質の向上にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目のホームとして地域の一員となるべく、地域行事への参加や開催場所として取り組みが行われ地域に馴染んできています。  
当ホームは町の中心に位置し、近くにホームセンターや商店があり、利用者の方が気軽に買い物や散策を行うことができ、これらの環境を上手く活用されています。ホームを訪問すると利用者の方が落ち着いた雰囲気でご過ごしておられました。また、利用者アンケートでもホーム利用のしやすさや職員の方の対応についての評価が高くなっています。今後も継続してこの環境を維持されていくことを応援させていただきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング内に職員用ファイルを備え閲覧でき、また常に一目で理念を見ることが出来るようにリビング壁に掲示している。全職員が共通意識を持ち取り組んでいる。	昨年の改善点である理念の掲示場所は、職員、利用者が見えるリビングに掲示されました。また、職員が理念について意識を持つことができるようファイリングされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の用瀬ふれあい祭り・地区運動会・用瀬町地域福祉運動会などに参加。地域から声掛けがあったり公民館と連絡を取り合ったりしている。また、地産地消を考え地域のお米や野菜を購入している。	昨年より、地域の各種行事に参加されたり、保育所の防火パレードの開催場所など地域交流の場としての役割を担っておられます。また自治会長から行事等へ声がかかるようになり地域に根ざした施設となりつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修を受けキャラバンメイトとして、包括支援センターの職員らと地元地域の方々に認知症の人を家族が住みやすいまちづくりを推進するためにサポーター養成講座の講師役を務めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において協力医や町の福祉課や包括支援センター職員、家族等から頂いた助言を活かして、口腔体操、脱水防止の対策、鳥取市からの情報収集や利用者の対応の仕方などを有効活用している。	参加者からの助言に加え、行事やヒヤリハットなどの検証や確認が運営推進会議で行われています。会議で得られた意見や助言についてはホームの運営に活かされています。	昨年同様、職員の研修や研鑽の場として活用されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席された時に意見交換・情報交換を行っているほか直接出向いて相談もしている。また、利用者の状況変化について必要に応じて随時連絡をしている。	日頃から、利用者の状況変化の報告や手続き等について問い合わせ等が行われ、適宜連携が取られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	倫理要綱にも掲げているが、職員ミーティング等で身体拘束について取り組むほか、関連する外部研修に参加し実施し、全員で取り組んでいる。	身体拘束に係る研修や外部研修に参加されています。ホーム内での研修の実施については年間2回計画されています。また、職員ミーティングでも利用者の状況の変化等に応じ拘束しない支援について検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関係の研修会に参加、報告会で全員に周知している。また、外出などの際には虐待などについて気をつけるようにしている。また、些細なことでも職員間で話し合える職場環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加している。運営方針規定、権利擁護マニュアルを作成し、年間計画にもとづき職員ミーティングの際に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書にそって丁寧な説明に心がけている。また、本人、家族の疑問、不安点等には分かり易く説明して、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員として、利用者、家族にも出席していただき、運営に反映している。また、面会時等に意見、要望等を伺い、スタッフ全員で共有するようにしている。	日常の面会や行事への参加の機会を捉え家族からの意見が聞かれています。聞き取られた意見は、職員全員で協議され取り組みの優先順位を決め運営に反されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎ、職員ノートへの書き込みと回覧、毎月の職員ミーティングにて、意見や提案を聞く機会を設けて反映できるように努めている。	日々の支援において、気づいたとき記入する職員ノートを回覧しておられます。また、日頃から気軽に管理者に職員が意見を言えるよう雰囲気づくりや環境の設定に努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心、やりがいをもって働ける職場環境作りに努め、職員の意見、要望等をミーティング、個別に対話する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるよう取り組んでいる。個々のケアの実際と力量にあった研修の周知、参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症のキャラバンメイト活動を通して地域の同業者と交流をしている。また、包括支援センター主催の管内事業所研修会に参加し、サービス向上への取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には施設の見学をお願いし、不安な事等を聞き、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明の際に、家族の思い、不安なこと等に耳を傾け、納得、安心していただけるように努めている。 面会時には近況等も伝え、要望等をお聞きする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援計画や他機関からの情報をもとに、本人、家族と対話する中で、最善と思われる支援につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いを十分把握し、日々の生活において、安心して生活してもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者及び担当職員ができるだけ連絡を取る機会を設けるように努めている。 また、気軽に立ち寄っていただける雰囲気づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や、友人関係の方も訪問しやすい雰囲気作りに努めている。 馴染みの場所等へドライブする等により関係が途切れないように努めている。	馴染みの近所の方や友人が気軽に訪問されています。訪問の際には失礼のない程度に利用者との関係を確認したり、利用者の様子を簡単に伝えておられます。 また、以前のサークル仲間が複数で来所されることがあるため、利用者の方のプライバシーに配慮した対応を行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士と一緒に声を掛けながら、色々なことを行えるよう、テーブル、ソファの配置を工夫している。 複数の利用者様が関わられるような馴染みの話題等を職員が仲立ちをするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればいつでも相談に応じる予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイル、生活環境及び思いや、意向を把握するように努めている。	日々の生活のなかで、一人ひとりの生活スタイル、生活環境及び思いをくみ取るように努めておられます。困難な場合は、本人本位や家族から聞き取るなどできるだけ意向に沿うようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族及び関係機関等と話し合いを持ち、生活環境等について把握に努めている。 また、入居後においても生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活動作、会話や表情等により現状の把握に努めている。 医療機関と連携し、身体状況についても把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアについて職員でカンファレンスを開き必要性に応じて本人、家族等と話し合いの場を設け、主治医の助言を頂きサービス担当者会議に発展させて介護計画に取り入れている。また、モニタリングによる評価を定期的に行っている。	計画の策定は、職員カンファレンスで現状について議論し大まかな方針を決めて、本人、家族等への聞き取りや意向確認が行われ、主治医の助言を加え策定されています。内容は利用者の皆さんに共通したのもあり、今後精査が必要かと思えます。	ケアプランの策定は、利用者の方に共通して配慮しなければならない項目も多く記載されています。支援内容は個々利用者の方に特化した計画になるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活動作表等に記録し、職員間で共有しながら状況の変化や問題点をカンファレンスし、サービス担当者会議に発展させて解決に向けて介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族等と相談の上、日用品購入やかかりつけ医への受診及び行政等への提出物等について付き添いなど行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めており、有効活用、地域へ溶け込むような取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医への受診や、当事業所の協力医への定期受診を行い、適切な医療を受けていただいている。 また、受診結果の家族への報告も行っている。	これまで受診していた主治医には継続して通院等が行われています。また、日頃の健康面などの相談や定期受診は近くの協力医で行い、必要に応じてかかりつけ医へ電話での問い合わせや意見を求められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は配置されていない。又、訪問看護の利用も現時点でないが、必要に応じて医療及び看護師と連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と連携を密にし、状態の変化や緊急時も含め情報交換を行いいつもで対応可能な状況としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての説明を行っています。また、重度化が進んだ場合は、家族等の意向を伺いながら、主治医の意見も含め協議していくこととしている。	契約時に説明がおこなわれています。また、重度化などの際には医師の診断をもとに家族との協議が行われています。また、ホーム全体で取り組みについて話し合いを行い対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル等により、初期対応等の周知、徹底を職員ミーティングで行っている。急変時等の対応については、協力医師と速やかに連携できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、職員ミーティング等で周知している。年2回の防災訓練を行い、防災マップをもとに各災害に対する避難場所等の確認を行っている。地区の区長を通し、地域の方々にも協力をお願いをしている。	年2回の防災訓練を実施し、防災マップをもとに各災害に対する避難場所等の確認をされています。緊急時には地域の支援体制として区長への連絡や地域の方々にも協力していただける体制が取られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性やペースを尊重した言葉かけに努めるとともに、排泄、入浴等プライバシーに配慮した支援を心掛けている。	利用者についての接遇をはじめプライバシーについての研修を開催され、ホームの運営規定にそって職員に周知されています。また、日々の支援で人格尊重やプライバシーについて気づきがあれば、指導されていますが十分ではありません。	対応はされていますが、職員間での気づきや標準化に向けての研修等が必要です。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話や様子をみながら、ご本人の思い等が出易い声掛けやゆったり聴く等を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に支援を心掛けており、その人らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容院を利用される方は、カラーリングの色等の希望を直接、本人から美容師に伝えてもらう等好みを尊重した支援をしている。衣服については、個人の好みを尊重し、丁寧な支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物を聞き取りして提供している。また、本人のその日様子をみながら、食材の皮むき等下ごしらえから調理、食事の盛り付けなどを職員と共に楽しんで行ってもらい食べて頂いている。片付けも協力してもらっている。	利用者の好みや季節に応じた地元の食材を取り入れることで食事が楽しみとなるよう工夫されています。職員も自ら得意料理をつくるなど取り組まれています。また、利用者が楽しく食事に関われるよう声かけをして、準備や片づけを職員と一緒に行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に合わせた食事、栄養バランスを考えた食事を提供している。水分、食事の摂取量の把握を行い、確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの方に合った支援を行い、毎食後の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表により把握し、それぞれの方に合った排泄介助を行っている。ご本人と相談の上、紙パンツ使用の方は、布パンツに替えてみる等の自立に向けた支援も行っている。	利用者ごとに排泄パターンが把握され、当日の体調を見ながら声かけ、誘導が行われています。また、服薬の影響による排泄状況についても職員間で共通理解が図られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関への相談を含め、水分摂取量、食物繊維を多く含んだ食材の提供等を心掛けている。また、便秘予防の運動等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日等は決めていないが、入浴の記録を参考に、間隔が開き過ぎないように配慮し、意思を確認している。自分のペースで入浴を楽しんでもらえるように支援している。	入浴の記録を基に清潔が保てるよう配慮されています。また、入浴を拒否される利用者には、体の一部の入浴など促し工夫され、間隔が開き過ぎないように配慮されています。できるだけ、自分のペースで入浴を楽しんでもらえるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に応じた休息の支援を行っている。室内の温湿度等に気を配り、過ごしやすい環境に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で共有し、服薬時には2人の職員が確認、服薬の対応が行われている。また、利用者の状態に合わせた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、それぞれの方の能力に合わせた役割を職員とともに考え行ってもらっている。季節感のある行事を行い、気分転換等の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等にもよるが、日光浴や散歩、草むしり等希望に沿うよう、戸外に出る支援に努めている。また、ご家族にも協力していただき、ご本人の意向に沿えるよう努めています。	利用者の希望にそって日光浴や散歩などが行われています。近くのホームセンターでは季節に応じた花木があり利用者の楽しみとなっています。月に数回は、外出が企画され季節にあった取り組みが行われています。また、ご家族にも協力依頼し、外出が出来る体制が取られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持つことができる方は所持されており、日用品等必要な物品を職員とともに、商店で購入される等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をできる方については、電話の取り次ぎを行っている。手紙のやり取りは行う利用者はいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快、混乱をまねくような刺激がないように、居心地の良い環境提供を心掛ける。生花を活ける、壁画や飾りを工夫し、季節を感じてもらえる工夫をしている。	共用空間は、生花などで居心地のよい空間づくりの工夫がされています。また、壁画の飾りなどについては利用者が作成された物を展示するなど、作品を見ながら利用者が会話などを楽しむ場所となるよう努めておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はその時の雰囲気や状況により居場所を変えたり、気の合う人同士が過ごせるよう、ソファや椅子の配置を変える等の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただいたり、趣味で作成した物等を居室に飾る等により、居心地よく過ごせる工夫をしている。	特に制限はなく、使い慣れたものを持ってきていただいたり、趣味で作成した物等を居室に飾る等により、居心地よく過ごせる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはそれぞれ、トイレ、脱衣所及びリビング等の表示を工夫し、分かりやすさや安全に配慮した工夫が行われ、戸惑い等の混乱を防ぎ安全な環境作りに心掛けている。		